

| グループ名 | ユニット名等 | 科 目 名 | 担当教員名 | 対象学年次 | 学期 |
|-------|--------------|-------|-------|-------|----|
| 現代社会 | 2 単位 国際社会 | 国際関係論 | 土谷 岳史 | 1 年次 | 春 |

| | |
|---------------|--|
| 授業のキーワード | 近代、権力、文化 |
| 授業の概要 | 国際関係の成り立ちから現代の国際社会の問題までを歴史的に取り扱う。「国際関係」が近代的な秩序であり、「国際関係論」という学問の目的と国際関係論に突きつけられた現代の課題を理解することを目指す。 |
| 期待される学習成果（目標） | 1. 国際関係の歴史的形成と変容を理解できる。 2. 学問と国際秩序、外交政策の政治的関係性を理解できる。 3. 現代の諸問題について能動的に考え、見解をまとめることができる。 |

授 業 展 開

| | テーマ | 内 容 | | テーマ | 内 容 |
|---------------------|----------------------------|---|---------|-------------------|---|
| 第 1 講 | イントロダクション | 本講義の目的、内容、求められる受講態度について説明する。 | 第 9 講 | 国際政治学の誕生 | 「国際政治学」という学問はどこから来たのか？学問とはなにか？を考える。 |
| 第 2 講 | 国際関係の成り立ち：ウェストファリア体制とは？ | 「国際関係」が近代の新たな秩序であることを理解する。 | 第 10 講 | 冷戦と国際関係論：米ソの覇権と安定 | 冷戦と国際関係理論の相互作用を理解し、学問の政治性について考察する。 |
| 第 3 講 | 18～19 世紀：勢力均衡 | 18～19 世紀の国際関係を特徴づける理念である勢力均衡について理解する。 | 第 11 講 | 植民地の独立とポストコロニアリズム | 近代的秩序である国際関係の権力性への対抗とそれに伴う国際関係の変容を明らかにする。 |
| 第 4 講 | 18～19 世紀：文明／野蛮 | 近代的秩序である国際関係＝国際社会を支える原理について考察する。 | 第 12 講 | 冷戦終結と新たな秩序の模索 | 冷戦後の世界認識の変化と新たな秩序の模索を考察する。 |
| 第 5 講 | 近代国家としての日本の誕生 | 国際関係に参加していく中で生まれた近代国家「日本」の姿を明らかにする。 | 第 13 講 | 人間の安全保障と聖戦／正戦の復活 | 現代における戦争の位置づけと戦争と関係する理念について考える。 |
| 第 6 講 | 総力戦と戦争違法化①：第 1 次大戦と兵器の革新 | テクノロジーの進歩と国際関係の変容について考察する。 | 第 14 講 | 日米軍事機構の一体化 | 現代の日本がとっている外交方針と軍事的変容について明らかにする。 |
| 第 7 講 | 総力戦と戦争違法化②：第 2 次大戦と人道に対する罪 | 戦争の変化が人類にもたらした衝撃から第 2 次世界大戦を考える。 | 第 15 講 | 全体のまとめ | これまでの講義を振り返り、まとめる。 |
| 第 8 講 | 平和の模索：国際連盟と国際連合 | 2 度の世界大戦を経る中で模索された国際秩序構想とその結果としての現代国際関係を理解する。 | 定期試験 | | レポートを課す。学生自身で課題を設定し、調べ、見解をまとめることが求められる。 |
| 評価方法 | | 期末レポート 80%、出席時のコメント等 20%（中間レポートなどを課すことがある） | | | |
| 使用する教科書（必ず購入してください） | | | 参 考 文 献 | | |
| | | | | | |